



平成27年12月期 第3四半期  
決算説明資料  
(2015年度)

2015年11月12日

昭和シェル石油株式会社

## 注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

# 業績概要（2015年1-9月）

	2014年 1-9	2015年 1-9月
	億円	
石油事業営業利益 (CCS*ベース)	155	378
エネルギーソリューション事業営業利益	142	-31
CCS*ベース営業利益	297	346
経常利益	284	-40
CCS*ベース経常利益	309	334
当期純利益	224	-74
1株当たり当期純利益(円)	59.6	-19.6

(注)「その他」および「調整額」は石油事業に含む

\* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)

## 決算ハイライト

- 1-9月のCCSベース経常利益は前年同期比増益を維持。1-3月期に加え、7-9月期にも大幅に原油価格が下落したため大幅な在庫評価損が生じ、経常利益は前年同期比で悪化
- 1-9月の石油事業の営業利益は前年同期比で大幅増益となるも、エネルギーソリューション事業は減益

## 石油事業ハイライト

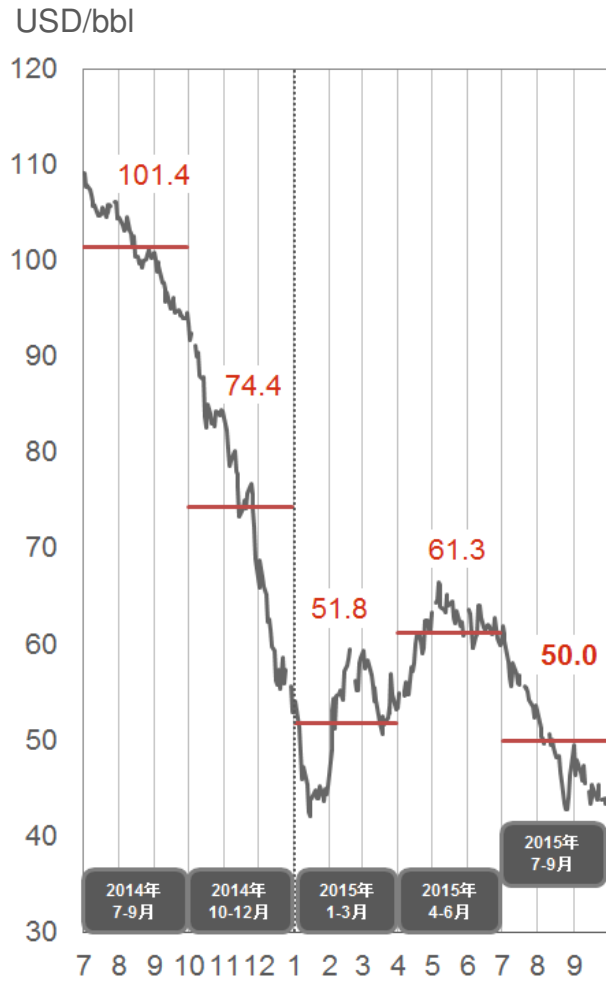
- 7-9月のマージンは原油価格下落によるタイムラグ影響によりやや低迷するも、1-9月では良好なマージンを確保。特に当社の販売比率が高いガソリンの好マージンが追い風となった
- 燃料油輸出マージンは国内マージンと比較しても良好に推移。追加的収益機会として特に製品輸出を強力に実施した
- グループ製油所は業界平均を上回る高稼働を維持

## エネルギーソリューション事業ハイライト

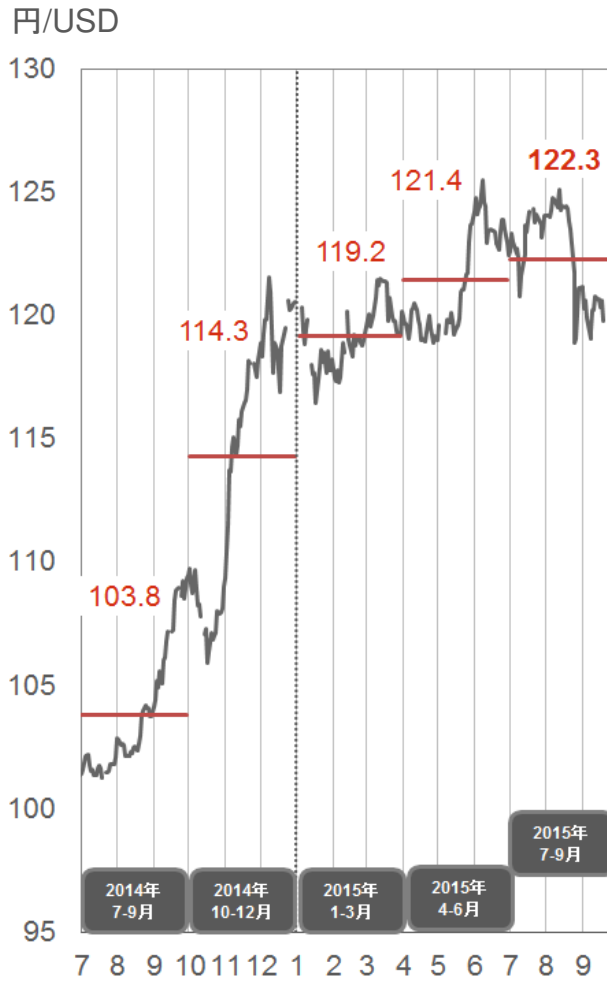
- (太陽電池事業)国内の新規需要鈍化の影響および海外向け出荷遅れの影響で出荷数量は前四半期比で減少。営業損失は拡大するも、営業キャッシュフローは黒字を維持
- (電力事業)収益は計画通り進捗。発電所の安定稼働を背景に、小売販売拡大を中心とした販売ポートフォリオの最適化が貢献

# 事業環境－原油、為替

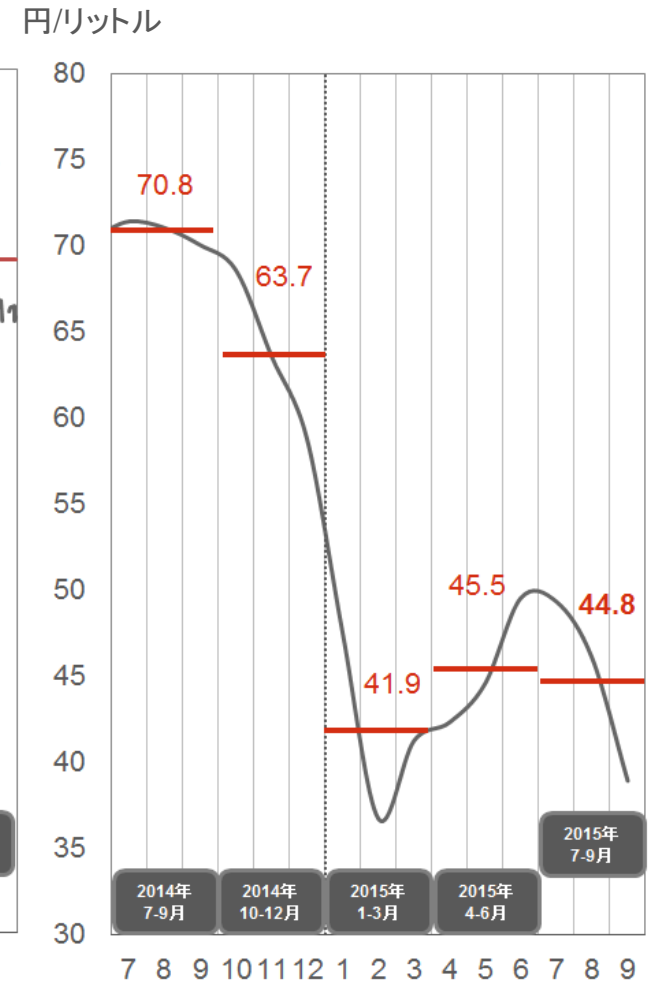
## ドバイ原油価格



## 為替レート(ドル)



## 原油通関CIF価格

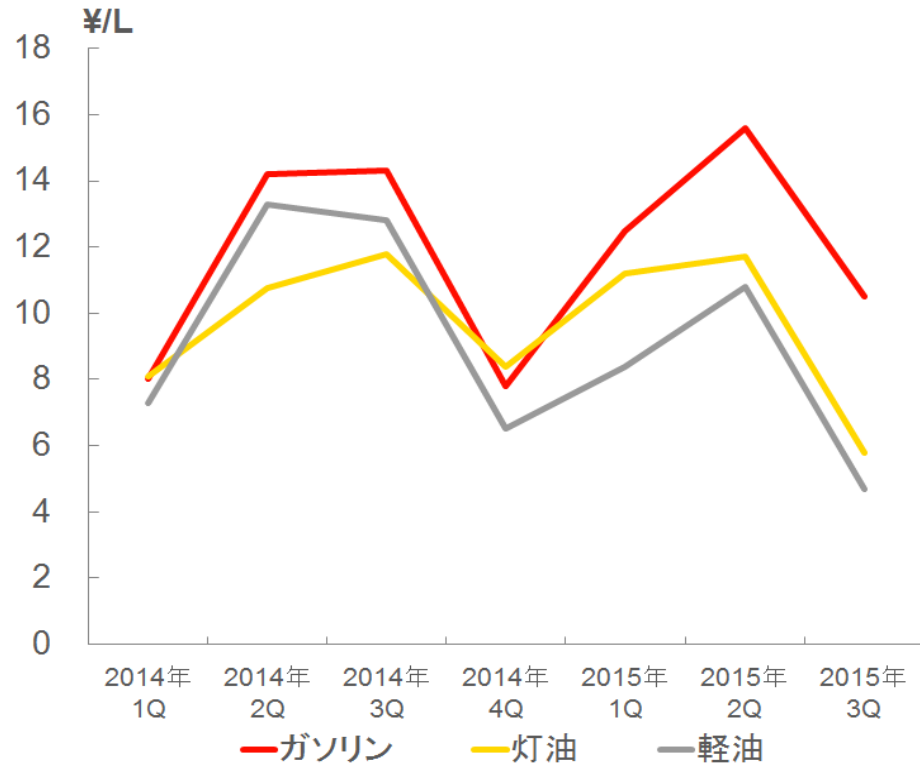


出典：財務省「貿易統計」

# 事業環境(7-9月)－石油事業

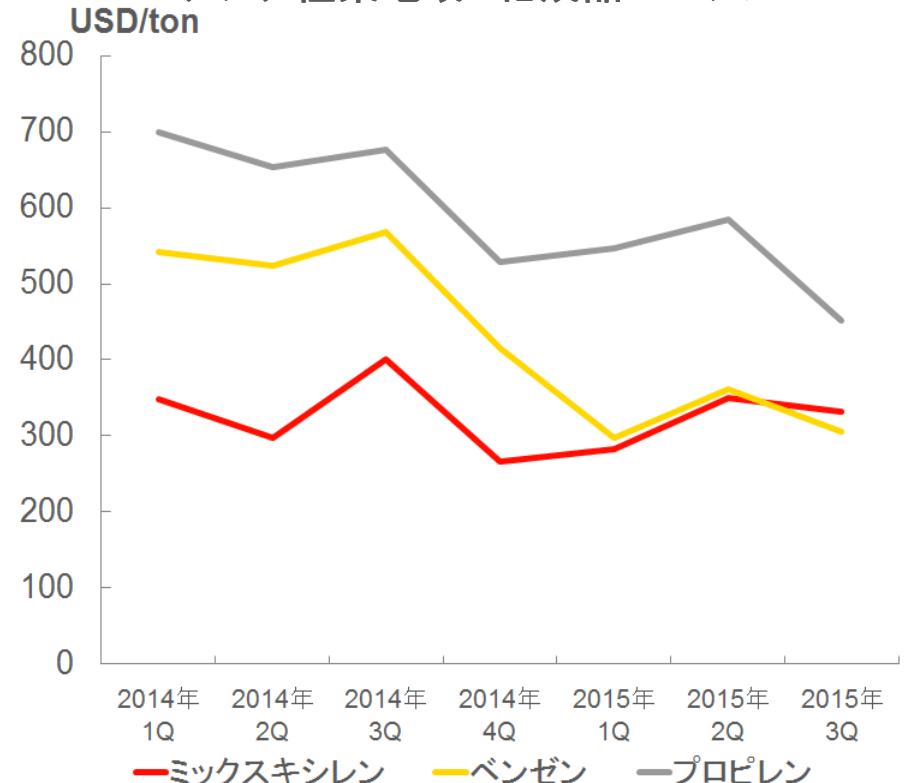


## 国内石油製品マージン



※ 国内スポット価格－原油通関CIF

## アジア極東地域 化成品マージン



※ スポット製品価格－ドバイ原油スポット価格

- 第3四半期の国内石油製品マージンは、前四半期比で悪化。7-8月にかけて原油価格が大幅下落したことにより、1-3月期と同様に、原価の低減に先立って燃料油卸売価格が下落するタイムラグ影響が発生したことが主要因。そのような中でも、当社において販売比率が最も高いガソリンのマージンは相対的に高く、全体の収益を下支えした
- 第3四半期の化成品マージンは原油価格の下落および中国経済動向の悪化の影響を受け、前四半期比で悪化するも、一定の水準を維持

## 決算ハイライト（1-9月）

### ■ 原油価格および為替レート

		2014年度 1-9月実績	2015年度 1-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	104.0	54.4
為替レート	(円/USD)	102.9	121.0

### ■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2014年度 1-9月実績	2015年度 1-9月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	2,267,544	1,668,949	- 598,594	-26.4%
営業利益	27,248	-2,775	- 30,023	-
営業外損益	1,206	-1,232	- 2,439	-
経常利益	28,454	-4,007	- 32,462	-
※在庫影響	-2,537	-37,451	- 34,914	-
※CCSベース経常利益	30,991	33,444	+ 2,452	+7.9%
特別損益	2,537	66	- 2,470	-97.4%
当期純利益	22,477	-7,415	- 29,892	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの利益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する利益

# セグメント情報 (1-9月)

## ■ 売上高

(百万円)	2014年実績 1-9月	2015年実績 1-9月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	2,162,722	1,584,254	- 578,468	-26.7%
エネルギーソリューション事業	96,500	78,801	- 17,698	-18.3%
その他	8,321	5,893	- 2,427	-29.2%
売上高 計	2,267,544	1,668,949	-598,594	-26.4%

## ■ 営業利益

(百万円)	2014年実績 1-9月	2015年実績 1-9月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	11,995	-742	- 12,737	-
※在庫影響	-2,537	-37,451	- 34,914	-
※石油事業CCS営業利益	14,532	36,709	+ 22,176	+152.6%
エネルギーソリューション事業	14,226	-3,137	- 17,363	-
その他	1,005	1,097	+ 91	+9.1%
調整額	20	7	- 13	-63.7%
営業利益 計	27,248	-2,775	- 30,023	-
※CCS営業利益 計	29,785	34,676	+ 4,891	+16.4%

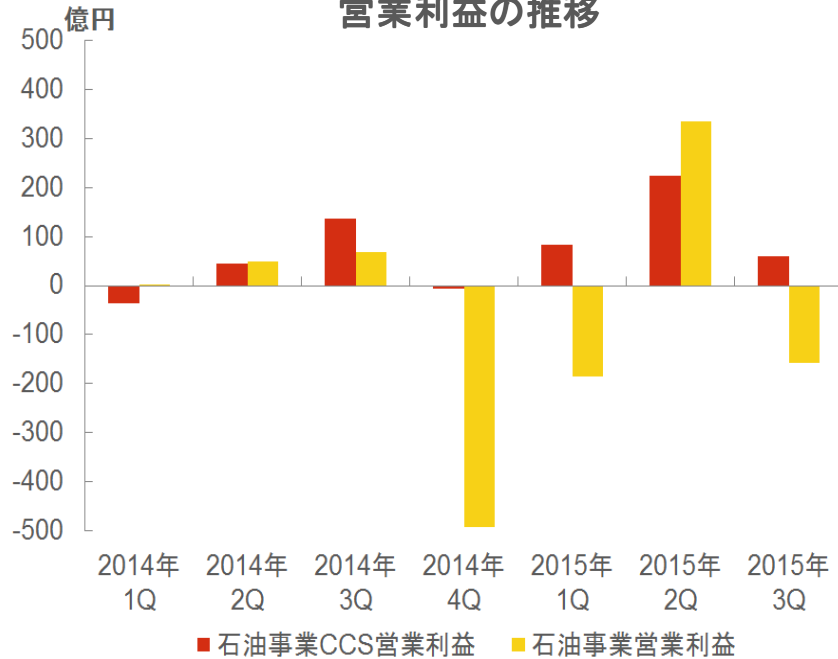
- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の供給・販売
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

# セグメント別業績概要(7-9月)



## 石油事業

営業利益の推移

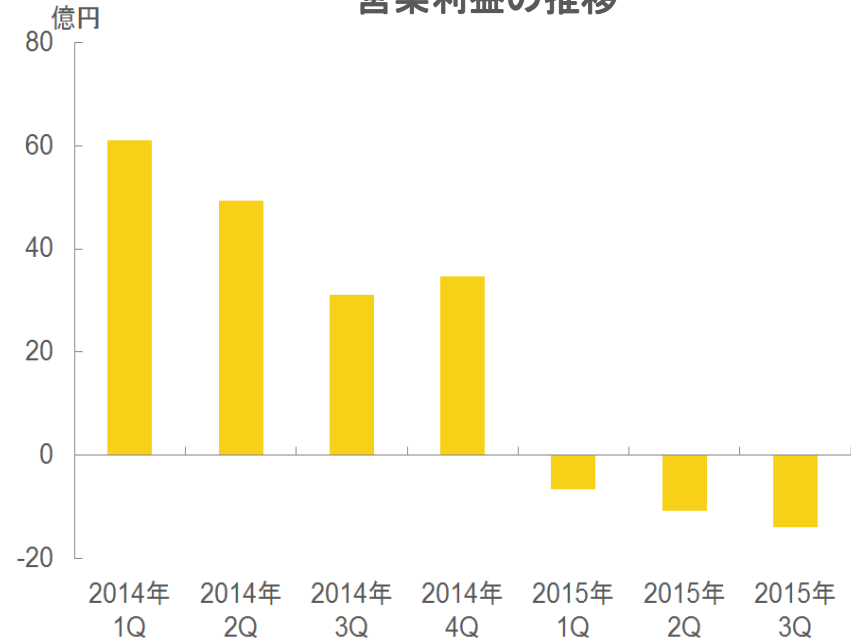


- 第3四半期のCCSベース営業利益は前四半期比および前年同期比で悪化するも黒字を確保。原油価格下落に伴うタイムラグ影響により、国内燃料油マージンが一時的に縮小したことが主要因
- 製品・サービス差別化戦略、製品輸出の拡大、継続的な構造的コスト競争力改善活動により収益の最大化を図った
- 原油価格の下落により、第3四半期は在庫影響が大幅な利益下押し要因となった



## エネルギーソリューション事業

営業利益の推移

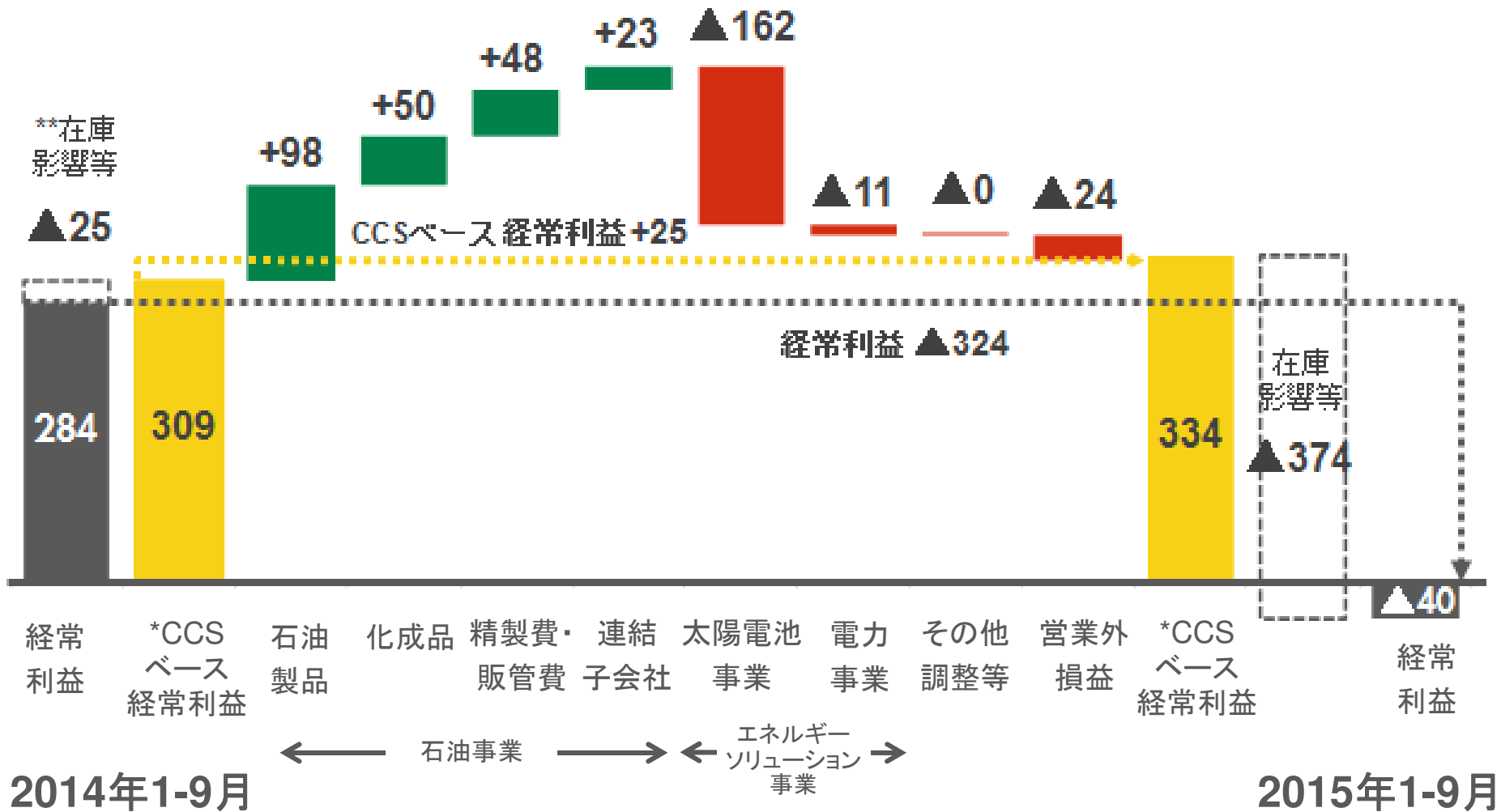


- 第3四半期は前四半期比で営業損失は拡大
- 太陽電池事業の営業損失は前四半期比で拡大。国内新規需要の鈍化の影響等により、パネル販売数量が落ち込んだことが主要因。新設の東北工場は立ち上げを継続
- 電力事業は、主力の扇島パワーを中心に総じて高い発電所稼働を維持しつつ、小売販売の拡大を推進するなど販売チャンネル多様化により計画に沿った堅調な利益を確保。新設のバイオマス発電所は、第3四半期に試運転を開始



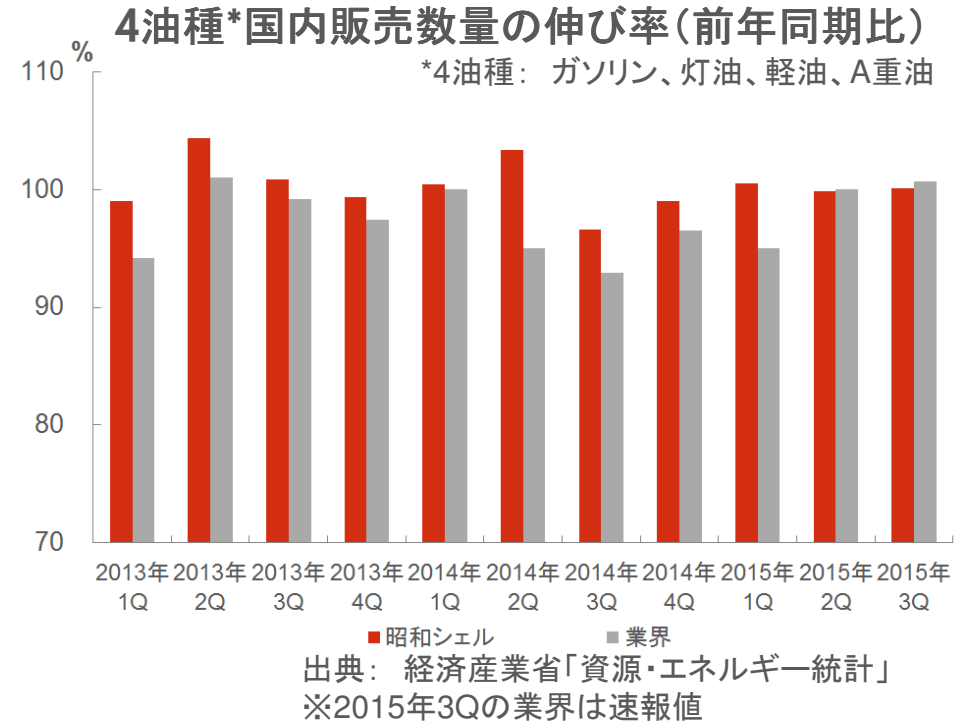
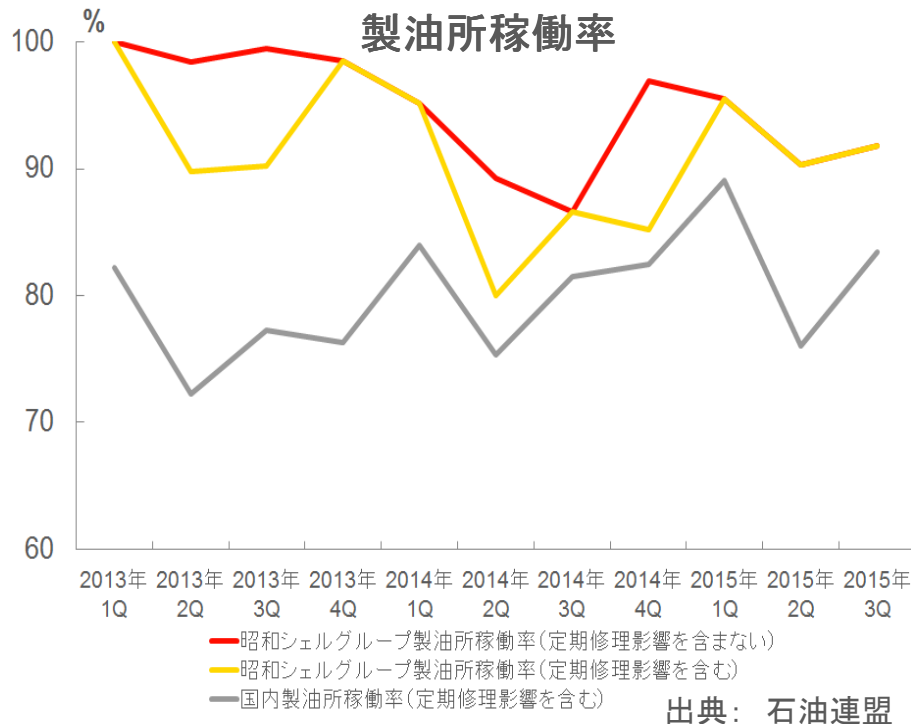
# 前年同期比 要因分析(経常利益)

単位：億円



\* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)  
 \*\* 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む

# 事業概況 (7-9月) - 石油事業



- 第3四半期のグループ製油所稼働率は、引き続き業界平均を上回った
- 第3四半期には顕著な天候不順があったものの、国内需要は総じて堅調。当社においては、軽油などの中間留分については低マージンのため、追加的収益機会を海外輸出に重点を置いて展開。そのため、ガソリン、灯油、軽油等4油種合計の当社国内販売数量伸び率は業界を下回った
- 昨年7月に発売した差別化燃料である新プレミアムガソリン「Shell V-Power」は、継続して販売は順調に進捗。当社プレミアムガソリン販売数量は前年を上回って推移し、収益にも貢献
- 引き続き化成品生産を最大限実施。製品輸出は、中間留分に加え、堅調なマージンが獲得できるガソリンも積極的に実施した

# 原油処理実績と販売数量実績（1-9月）



## ■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2014年度 1-9月実績	2015年度 1-9月実績
原油処理実績	(千KL)	16,635	17,873
稼働率	(%)	87.1%	92.5%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

## ■ 製品別販売数量

(千KL)	2014年度 1-9月実績	2015年度 1-9月実績	前年同期比
揮発油	6,466	6,445	- 0.3%
ジェット燃料	1,356	1,340	- 1.1%
灯油	1,783	1,777	- 0.3%
軽油	4,009	3,973	- 0.9%
A重油	1,340	1,427	+ 6.5%
C重油	928	793	- 14.6%
化成品* (千MT)	800	807	+ 0.9%
その他	2,181	1,893	- 13.2%
国内販売合計	18,863	18,456	- 2.2%
輸出	1,439	2,456	+ 70.7%
総合計	20,302	20,912	+ 3.0%

(補足)

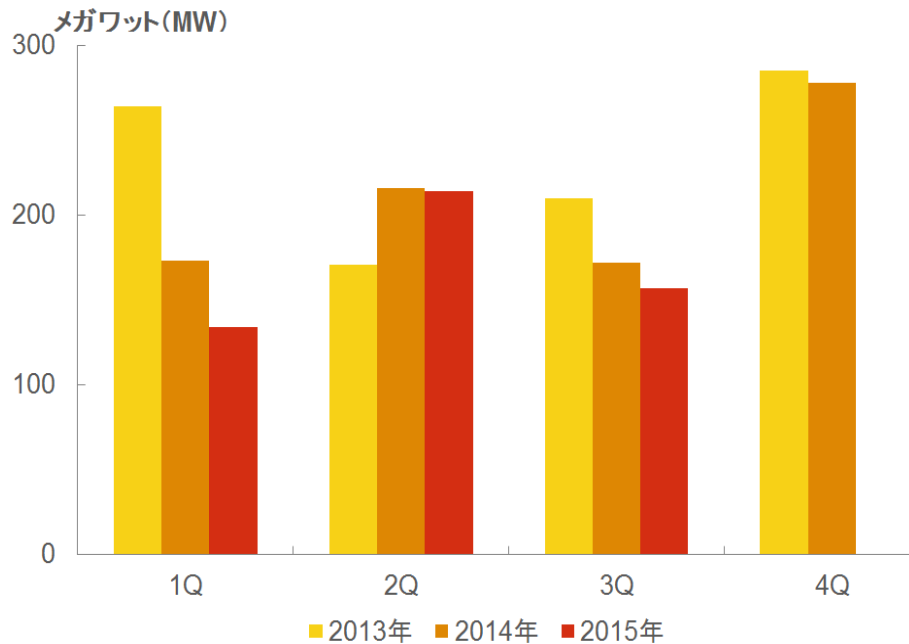
「その他」において前年同期比で大幅に減少している主要因は、2015年4月からLPガス元売事業統合会社「ジクシス(株)」が発足したことに伴い、LPガス供給の7~8割を占める輸入品がジクシス自身の調達に切り替わったため。1-9月期におけるインパクトは国内販売合計において約▲3%に当たる

\*化成品： ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

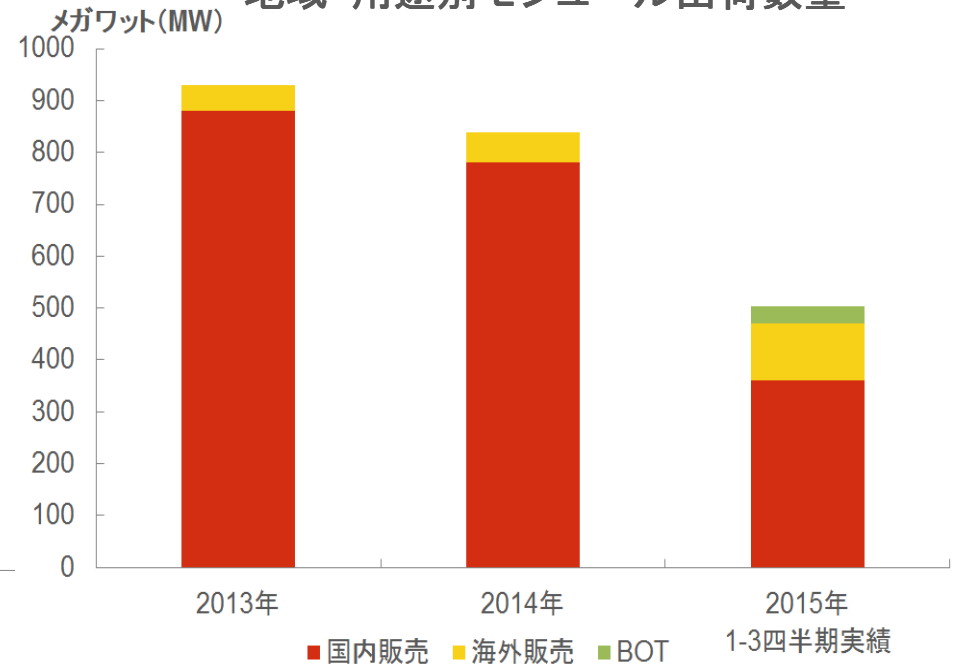
# 事業概況(7-9月)ー太陽電池事業



## 四半期別 モジュール出荷数量



## 地域・用途別モジュール出荷数量



- 第3四半期のパネル出荷数量は前四半期比、前年同期比ともに減少。国内販売においては再生可能エネルギー固定買取制度のルール変更等の影響により、新規需要が鈍化していること、海外販売においては出荷スケジュールの遅れが主要因
- 第3四半期は前四半期比で海外販売が拡大。中期経営アクションプランに基づき、北米・欧州・アジアなどでの販売基盤構築に継続して取り組んだ。北米や英国におけるプロジェクト開発(BOT\*)向けの出荷も開始し、北米の第一号案件(約15MW)は第三者への売却を成約
- 国内パネル価格は新規需要の鈍化に伴い、継続して下落傾向。海外市況は国内に比べて低位ながらも、比較的安定して推移
- 東北工場は継続して立ち上げを実施。立ち上げコストが計画に基づき発生

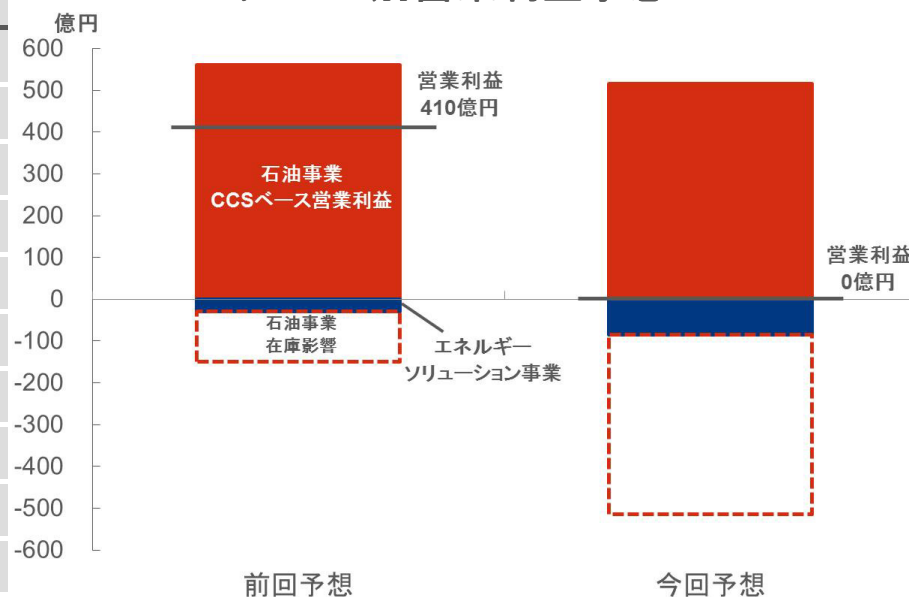
# 平成27年12月期連結業績予想(1)

## ■ 連結業績予想

(百万円)	2015年度		修正値
	前回予想(5月)	今回予想(11月)	
売上高	2,350,000	2,200,000	- 150,000
営業利益	41,000	0	- 41,000
※在庫影響	-12,000	-43,000	- 31,000
※CCSベース営業利益	53,000	43,000	-10,000
石油事業	56,000	51,500	-4,500
エネルギーソリューション事業	-3,000	-8,500	-5,500
その他および調整額*	-	-	-
経常利益	41,000	-1,000	- 42,000
※CCSベース経常利益	53,000	42,000	-11,000
当期純利益	27,000	-9,000	- 36,000

\*「その他」の予想は、「石油事業」に含まれています

## セグメント別営業利益予想



## ■ 配当予想

単位: 円	2013年	2014年	2015年
1株当たり年間配当金	36	38	38 (予想)
(うち1株当たり中間配当金)	18	19	19

### <配当予想>

- 8月に発表した1株当たり年間配当予想38円は変更なし
- 引き続き、安定した配当および戦略投資が実行可能なキャッシュフローを確保できる見通し

# 平成27年12月期連結業績予想(2)

## <業績予想の前提>

### ■ 石油事業:

- ✓ 第4四半期の国内燃料油マージンは足元の状況に基づく見通しを反映
- ✓ 原油価格の低位安定を見込み、年間でも大幅な在庫評価損が残る
- ✓ 化成品マージンは足元の水準を想定
- ✓ 構造的コスト削減を継続

### ■ エネルギーソリューション事業:

- ✓ (電力事業)引き続き安定した発電所稼働を背景に、堅調な利益が継続
- ✓ (電力事業)新設発電所である京浜バイオマス発電所は11月より商業生産を開始。扇島パワー第3号機の建設工事は完了、試運転を開始
- ✓ (太陽電池事業)期初に掲げた年間パネル出荷数量計画は維持するも、海外向け出荷は前回予想時より拡大するため平均販売単価の下落を見込む
- ✓ (太陽電池事業)付加価値販売およびコスト低減など、引き続き中期経営アクションプランに基づく戦略を実行するとともに、営業キャッシュフローの最大化を図る

### ■ 業績予想における原油価格および為替レート的前提(年間平均)

		前回予想(8月)	今回予想(11月)
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	57	52
為替レート	(円/USD)	123	121

### ■ 前提の変化に伴う在庫評価損益への影響額 (2015年10~12月の影響額)

	変動幅	在庫評価への影響額(億円)
ドバイ原油価格	1ドル/バレル	11
為替レート	1円/USD	4

\* 原油価格の変動の仕方や在庫数量によって、結果が異なる可能性があります

\* 低価法の影響は考慮しておりません

# Data Book

## 決算ハイライト（7-9月）

### ■ 原油価格および為替レート

		2014年度 7-9月実績	2015年度 7-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	101.4	50.0
為替レート	(円/USD)	103.8	122.3

### ■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2014年度 7-9月実績	2015年度 7-9月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	727,510	520,469	- 207,040	-28.5%
営業利益	10,362	-16,673	- 27,036	-
営業外損益	786	-1,079	- 1,865	-
経常利益	11,148	-17,752	- 28,901	-
※在庫影響	-6,878	-21,772	- 14,894	-
※CCSベース経常利益	18,026	4,020	- 14,006	-77.7%
特別損益	1,767	-4,389	- 6,156	-
当期純利益	8,476	-16,411	- 24,888	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益



## セグメント情報 (7-9月)

### ■ 売上高

(百万円)	2014年実績 7-9月	2015年実績 7-9月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	692,653	495,060	- 197,593	-28.5%
エネルギーソリューション事業	30,618	23,502	- 7,115	-23.2%
その他	4,238	1,907	- 2,331	-55.0%
売上高 計	727,510	520,469	-207,040	-28.5%

### ■ 営業利益

(百万円)	2014年実績 7-9月	2015年実績 7-9月	増減	前年同期比 (%)
石油事業	6,826	-15,737	- 22,563	-
※在庫影響	-6,878	-21,772	- 14,894	-
※石油事業CCS営業利益	13,704	6,035	- 7,668	-56.0%
エネルギーソリューション事業	3,111	-1,402	- 4,514	-
その他	426	467	+ 41	+9.7%
調整額	-1	-0	+ 0	-
営業利益 計	10,362	-16,673	- 27,036	-
※CCS営業利益 計	17,240	5,099	- 12,141	-70.4%

・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売

・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の供給・販売

・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

# 原油処理実績と販売数量実績（7-9月）



## ■ 原油処理実績とグループ製油所稼働率

		2014年度 7-9月実績	2015年度 7-9月実績
原油処理実績	(千KL)	5,634	5,974
稼働率	(%)	86.6%	91.8%

(注記)

原油処理実績および稼働率は京浜・四日市・山口の3製油所合計

## ■ 製品別販売数量

(千KL)	2014年度 7-9月実績	2015年度 7-9月実績	前年同期比
揮発油	2,263	2,264	+ 0.0%
ジェット燃料	476	476	- 0.1%
灯油	285	275	- 3.8%
軽油	1,349	1,322	- 2.1%
A重油	383	423	+ 10.4%
C重油	324	227	- 29.9%
化成品* (千MT)	260	272	+ 4.8%
その他	744	520	- 30.1%
国内販売合計	6,085	5,778	- 5.0%
輸出	433	919	+ 112.4%
総合計	6,517	6,697	+ 2.8%

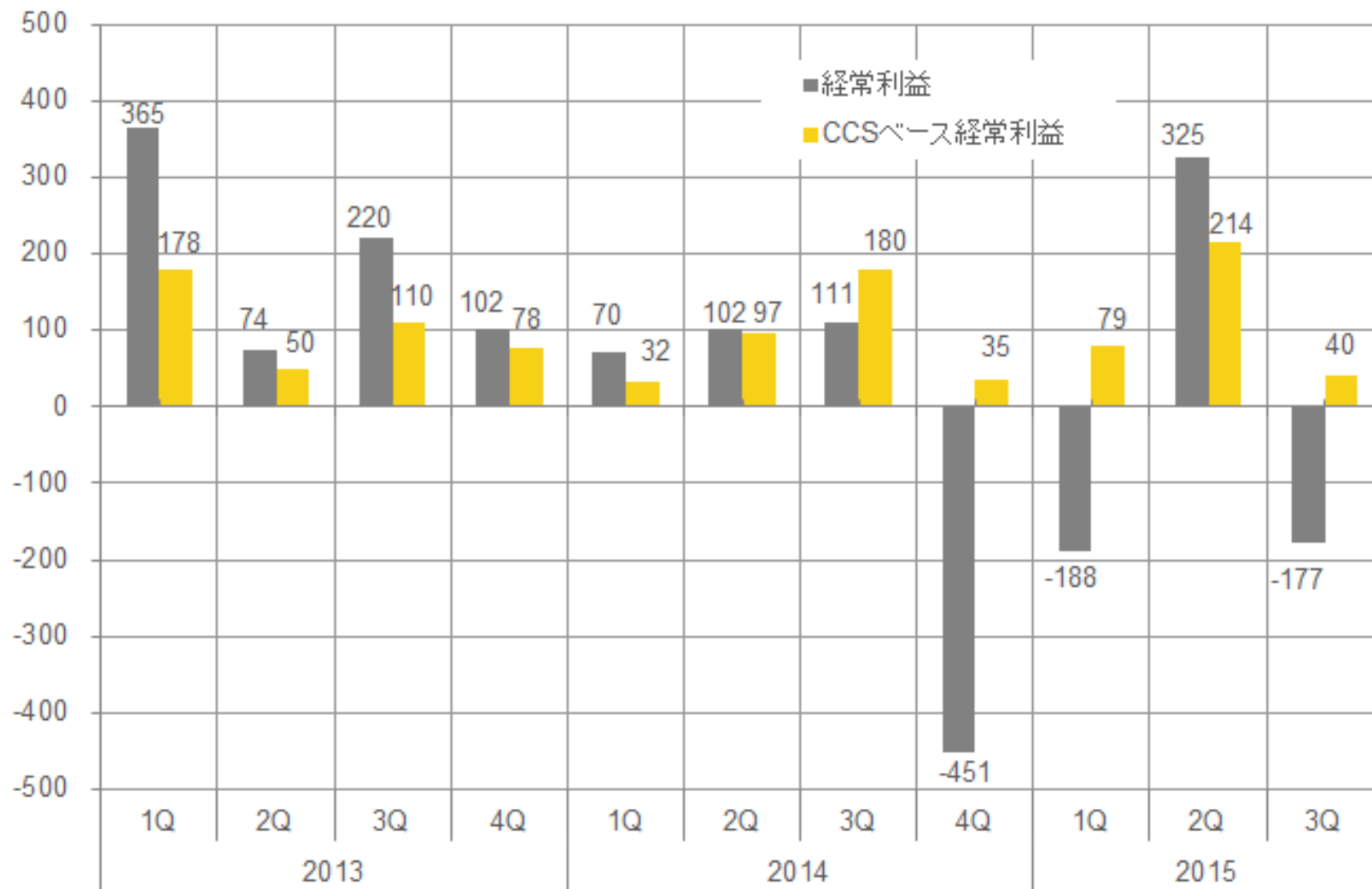
(補足)

「その他」において前年同期比で大幅に減少している主要因は、2015年4月からLPガス元売事業統合会社「ジクシス(株)」が発足したことに伴い、LPガス供給の7～8割を占める輸入品がジクシス自身の調達に切り替わったため。7-9月期におけるインパクトは国内販売合計において約▲4%に当たる

\*化成品： ミックスキシレン、ベンゼン、プロピレン

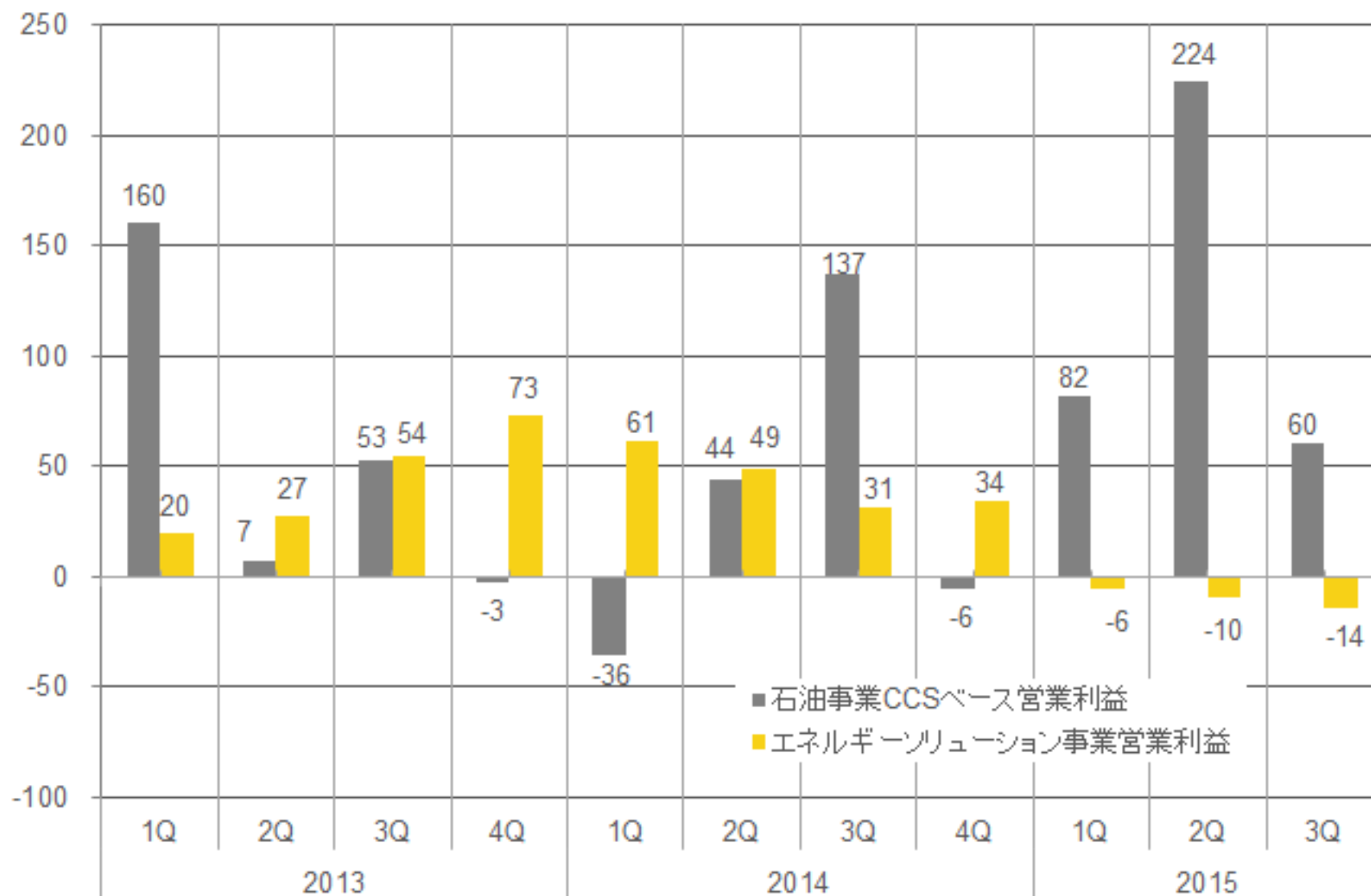
## 四半期別 経常利益の推移 (CCSベース)

億円



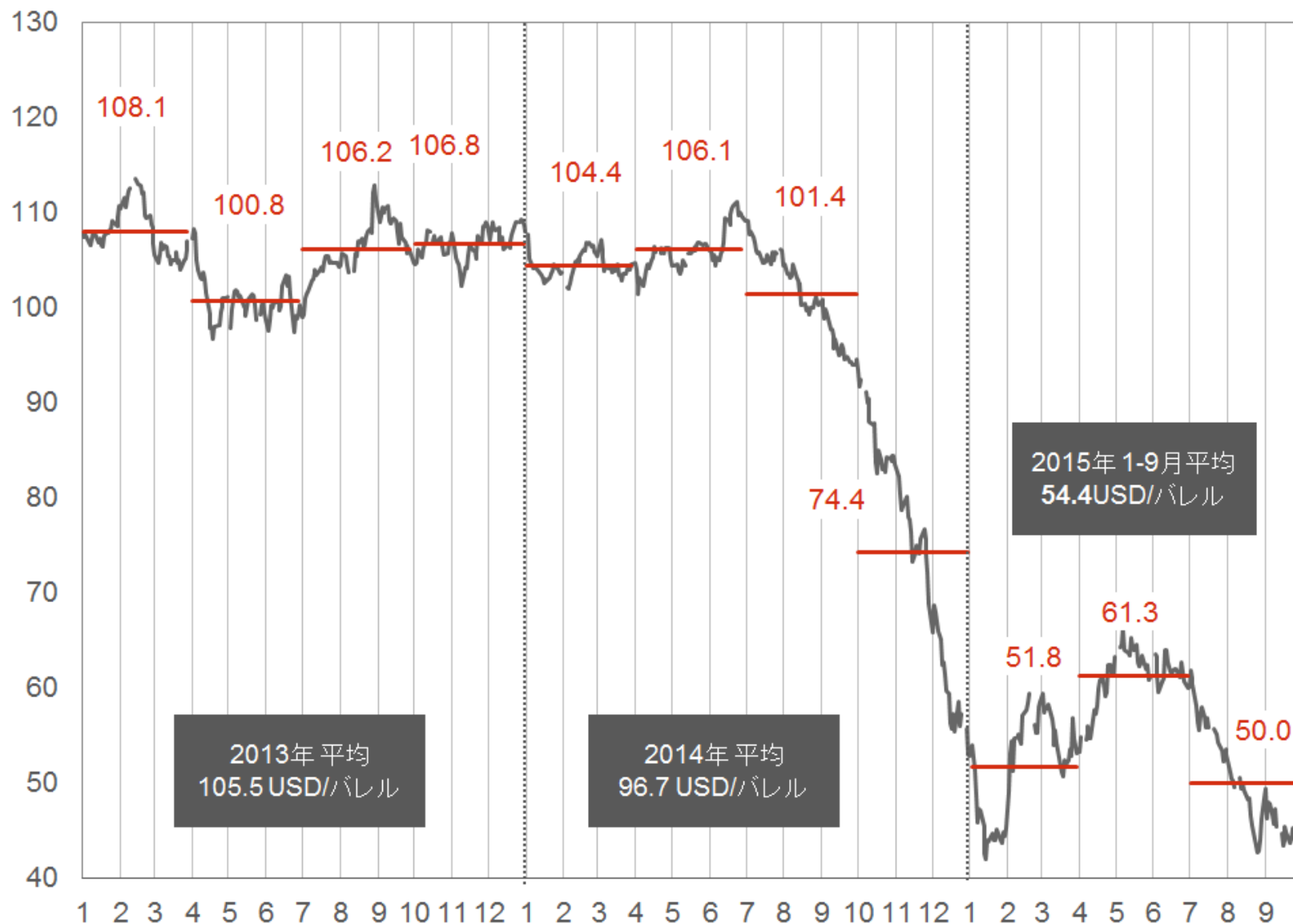
# 四半期別 セグメント別 営業利益の推移 (CCSベース)

億円



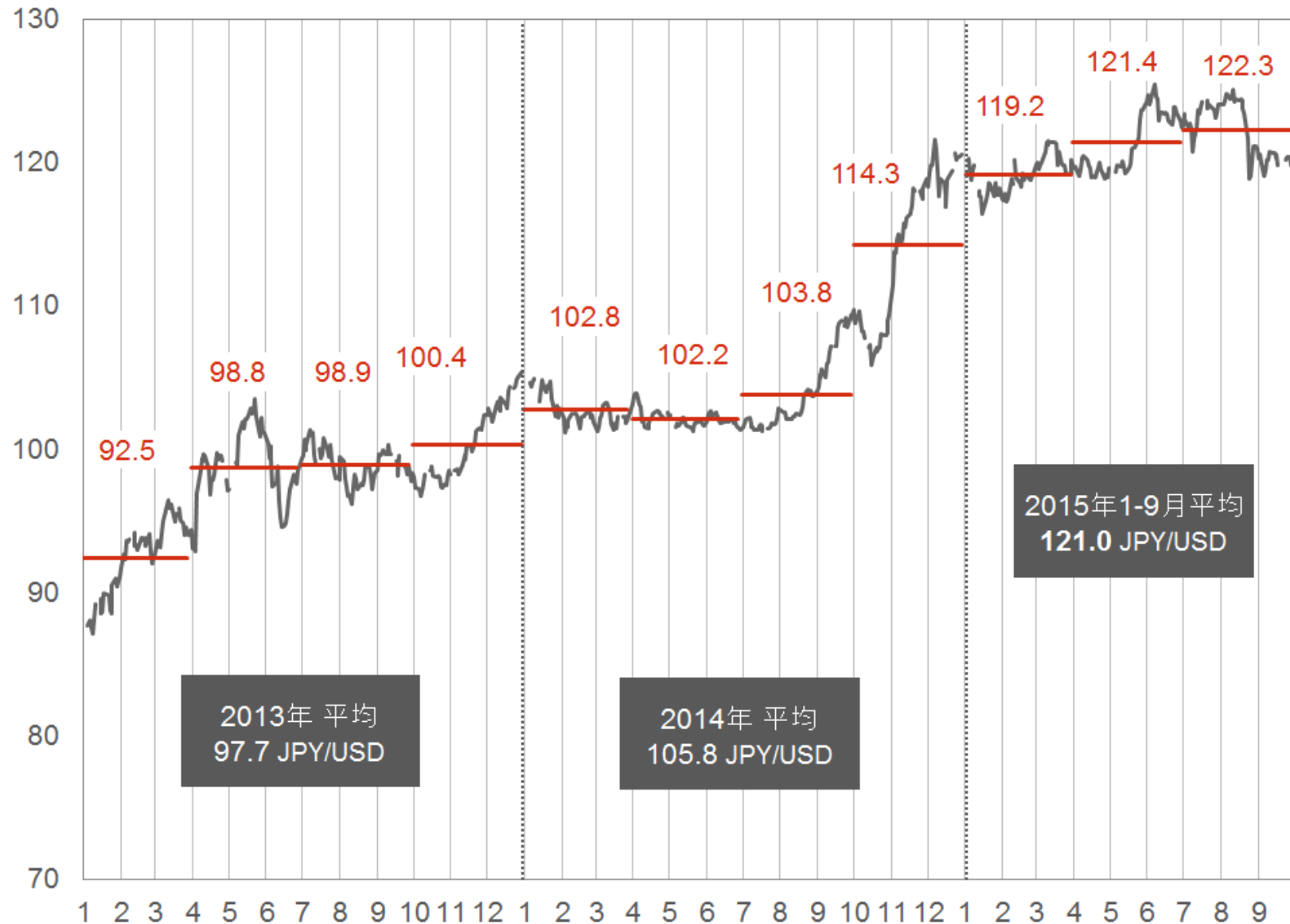
# ドバイ原油価格の推移

(USD/バレル)



# 為替レートの推移（円/アメリカドル 仲値）

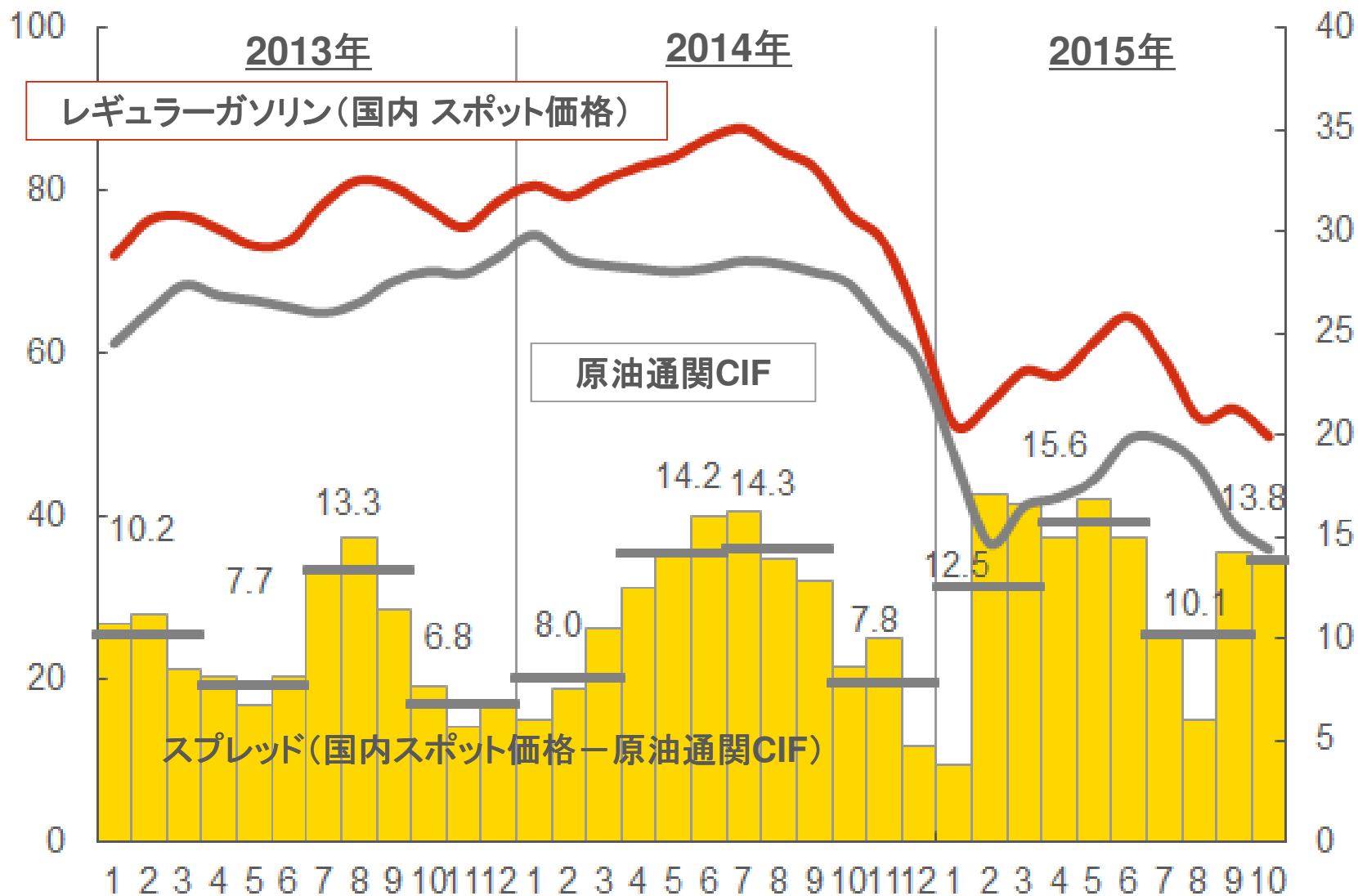
(円/USD)



# 国内マーケットの状況① (ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド ¥/L

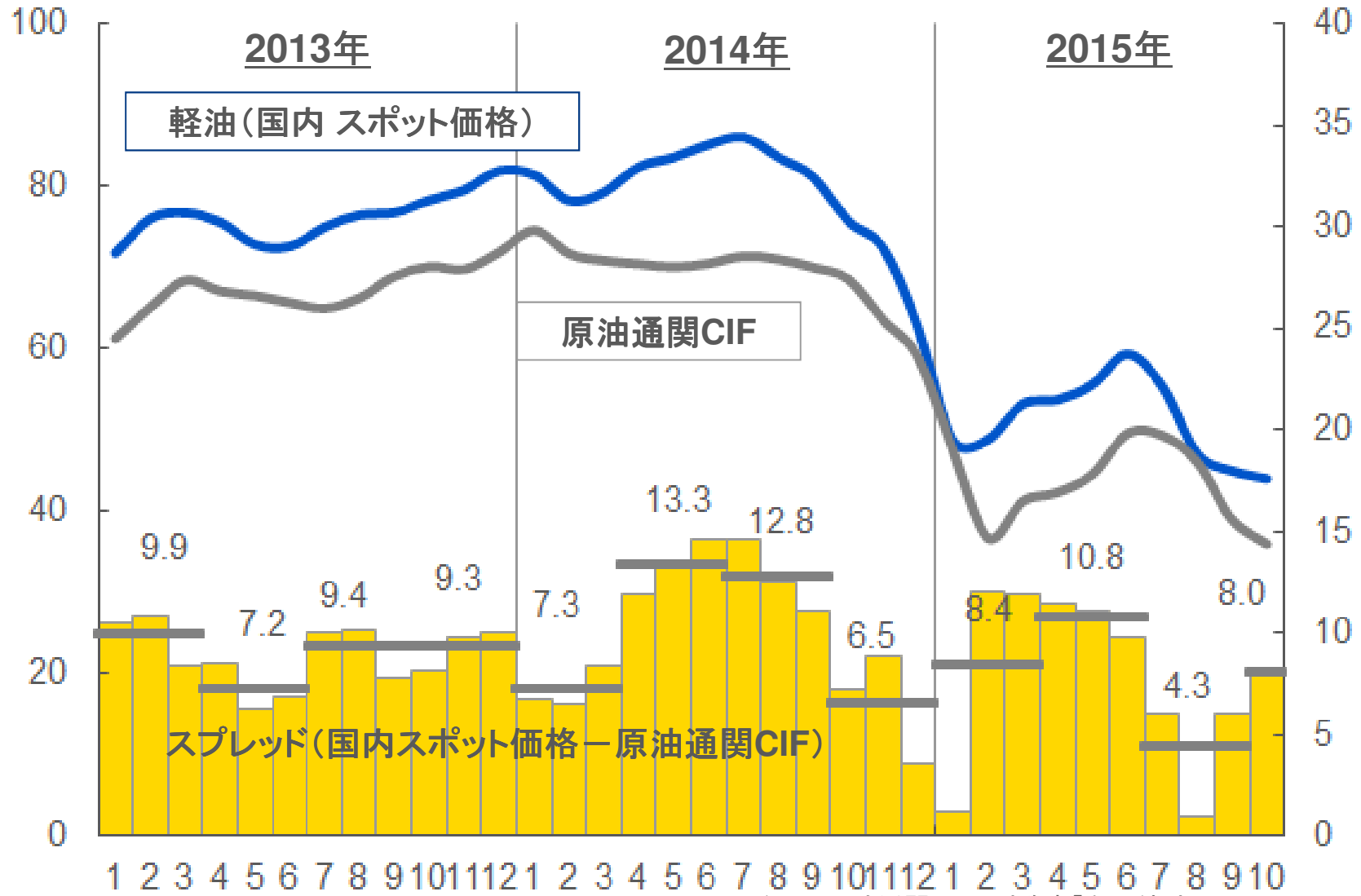


注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より  
 ※2015年10月の原油通関CIFは暫定値

# 国内マーケットの状況②（軽油）

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



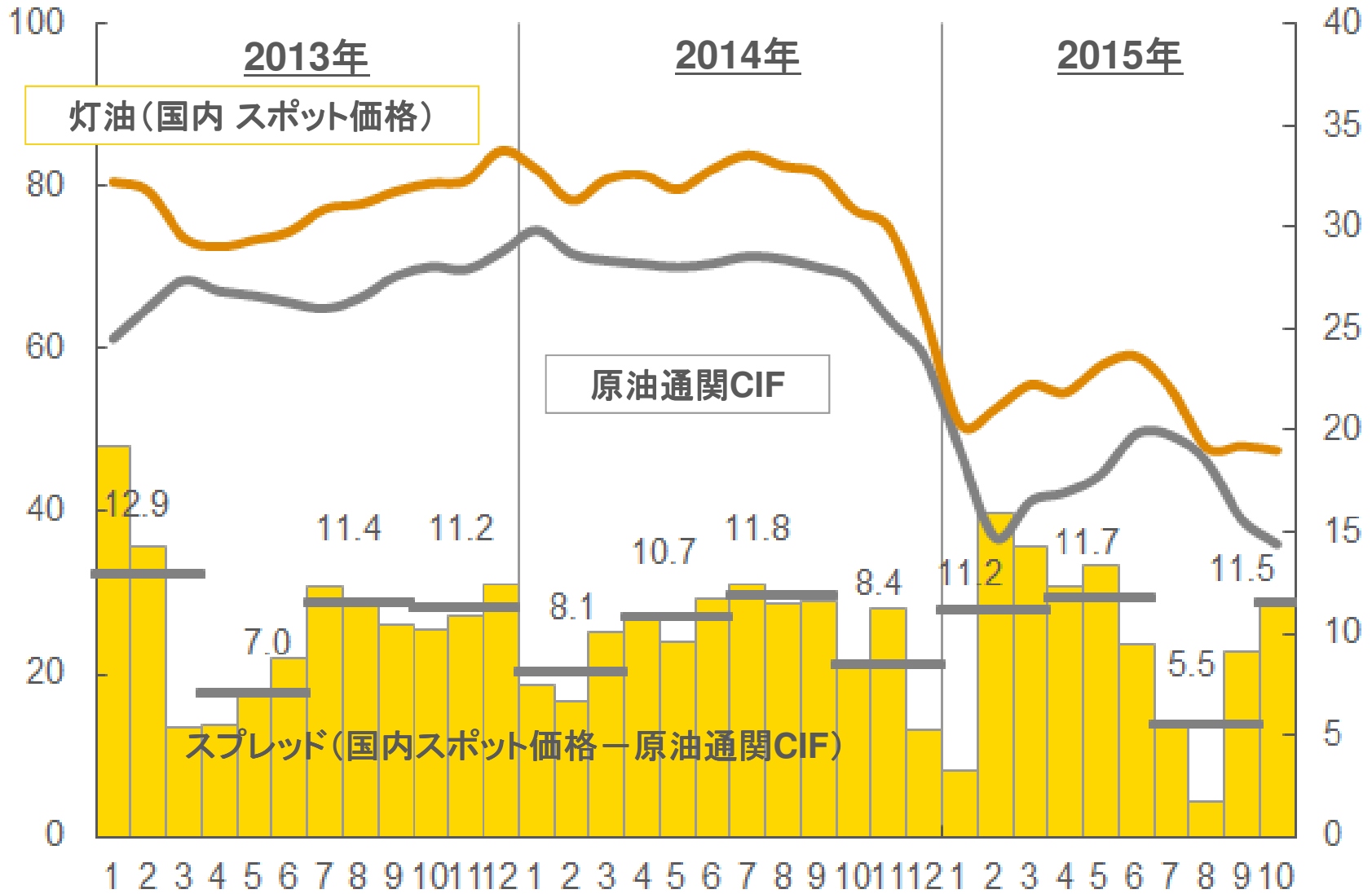
注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より  
 ※2015年10月の原油通関CIFは暫定値



# 国内マーケットの状況③（灯油）

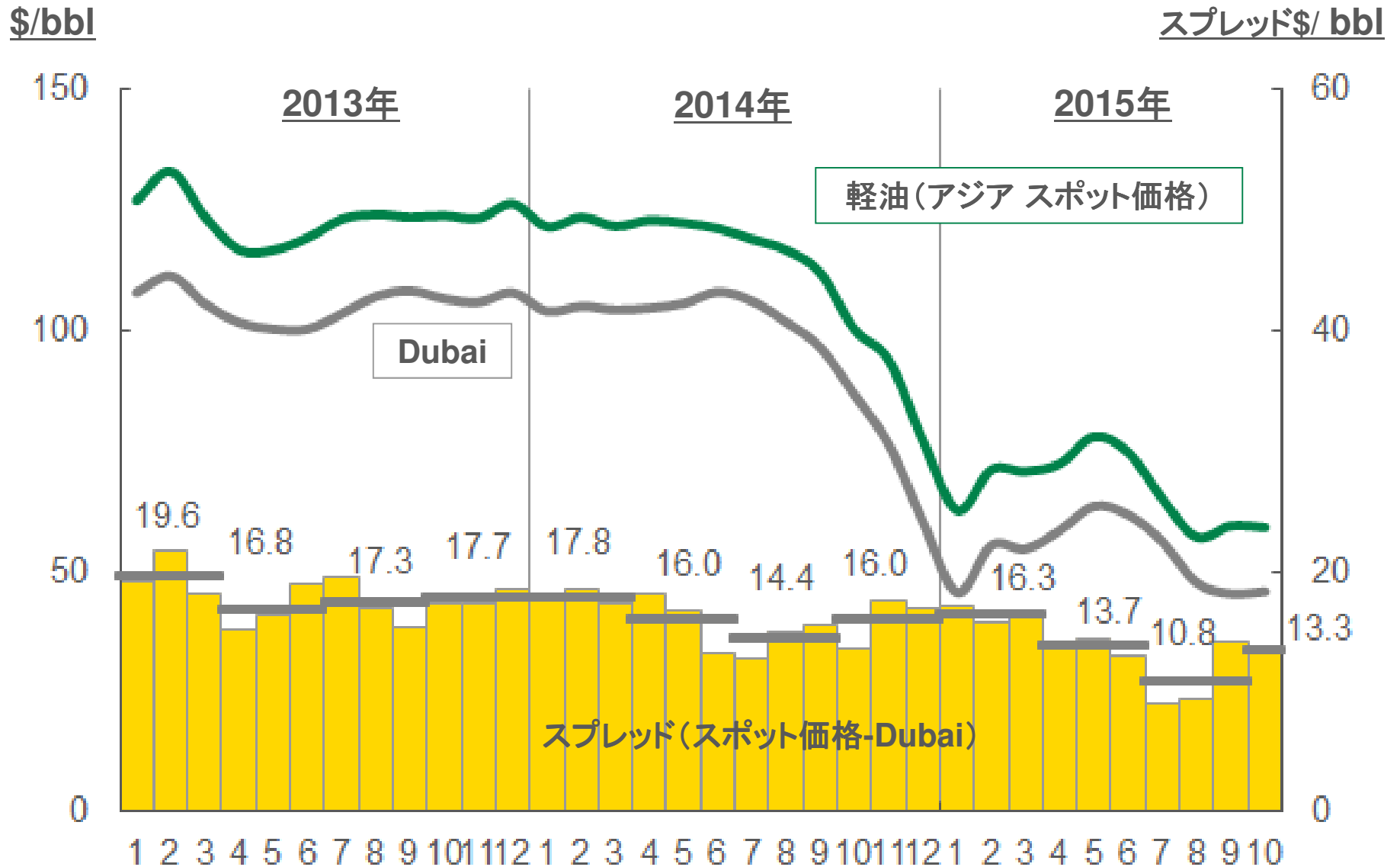
原油・製品価格 ¥/L

スプレッド¥/L



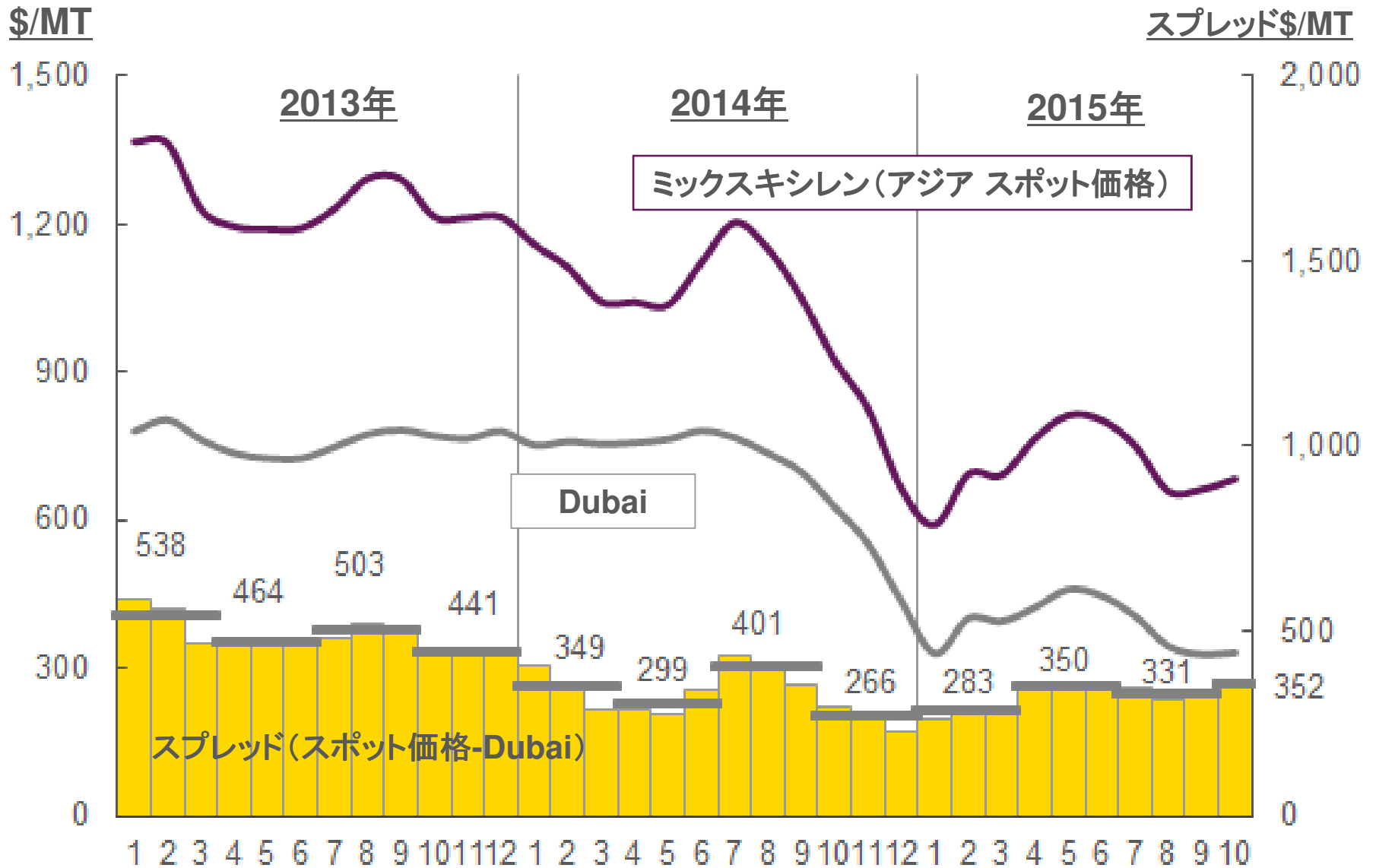
注記) 原油通関CIF: 財務省「貿易統計」より  
 ※2015年10月の原油通関CIFは暫定値

# 海外マーケットの状況①（軽油）



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

## 海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

